

俳句：文苑

著者	流瓢，百日紅，芥雄，石麓，双松，松村
雑誌名	龍南會雜誌
巻	8 7
ページ	4 9 - 4 9
発行年	1901-10-18
URL	http://hdl.handle.net/2298/5230

俳句

朝霧や川の向の人を呼ぶ	流瓢	打負けて詮なき顔や老相撲	全
團栗を拾ふ野分の朝かな	全	糶摺やランプさけたる柿の枝	全
牧場の柵に野菊の盛かな	全	砧うつ家に煙草の火を借りぬ	松村
古寺や壁一面の蔦紅葉	百日紅	糶摺の糶うつたかき蓆かな	全
野分して空一面の雲早し	芥雄	朝霧や町を離る、郵便夫	全
峰の松麓の家や霧時雨	石麓	橋の根に物賣る聲や朝の霧	全
松茸を苞にしてあり麓茶屋	双松	稻妻や祠小さき森の中	全
朝霧や漁船寄たる湊町	全		

雑録

衛生と弊

囑託衛生醫 柿田末四郎

予は嘗て本誌に於て、世人が身軀を保護に失はるの弊を述べたることありき、然るに、其弊害は今日に至るも、少しも改まるゝまなきのみならず、益甚しきを加ふるを見る、そふで、今爰に貴重なる本誌の餘白を借り、再び小言を述べ、會員諸君の一讀を煩はしたいと思ふ。

扱て衛生々々と云ふとは、近年漸く喧しくなり、一物を食ひ、一事を爲すにも、必つ衛生といふと